

# 校内研修全体計画

## I 研究主題

### 1 研究主題

「確かな学力を身に付け、自ら進んで考え学び合う至誠の子どもの育成」  
～数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 学校教育目標、めざす児童像より

本校では、学校教育目標に「至誠の精神で、真心をもって行動できる児童の育成」、めざす児童像に「よく考え進んで学び合う子ども」を掲げ、育てたい資質能力を下記のように定め、その実現を目指している。

#### 【育てたい資質能力】

- 当該学年の学習内容を習得できる力（基礎学力）
- 学んだことを他教科や生活に生かすことができる力（思考力）
- 自分のことばで、考えを伝えることができる力（表現力）
- 目標に向かって、粘り強く取り組む態度（挑戦心）

※至誠…福江小の子どもたちの心の指針。「至誠の誓い」。

#### (2) 児童の実態

算数科における全国学力・学習状況調査、県学力調査、CRT標準学力検査の過去3年間の結果を以下に示す。結果より、どの領域でも全国平均を下回るなど、課題が見られる。これまで「数と計算」の向上を目指して取り組んでおり、少しずつ改善されてきたが、引き続き確かな学力を身に付けることが求められる。また、学力が二極化しており、意欲においても個人差が大きい実態がある。

【CRT（全国比）】（2～4年）

	H29	H30	H31
数と計算	92	89	95
量と測定	92	90	93
図形	92	87	90
数量関係	88	85	90

【県学力調査（県比）】（5年）

	H29	H30	H31
数と計算		98	107
量と測定		93	98
図形		92	98
数量関係		93	100

【全国学力・学習状況調査（全国比）】（6年）

	H29	H30	H31
数と計算	104	90	91
量と測定	93	99	84
図形	95	97	90
数量関係	92	88	94

#### (3) 今日の課題から（改訂の方針等より）

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- 「数学的活動」の充実

小学校算数科においては、数学的に考える資質・能力の育成を目指す観点から、実社会との関わりと算数・数学を統合的・発展的に構成していくことを意識して、数学的活動の充実等を図った。

- 算数学習における「数学的な見方・考え方」

算数科の学習においては、「数学的な見方・考え方」を働かせながら、知識及び技能を習得したり、習得した知識及び技能を活用して探究したりすることにより、生きて働く知識となり、技能の習熟・熟達にもつながるとともに、より広い領域や複雑な事象について思考・判断・表現できる力が育成され、このような学習を通じて、「数学的な見方・考え方」が更に豊かで確かなものとなっていくと考えられる。また、算数科において育成を目指す「学びに向かう力、人間性等」についても、「数学的な見方・考え方」を通して社会や世界にどのように関わっていくかが大きく作用しており、「数学的な見方・考え方」は資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の全てに働くものである。

※数学的活動…事象を数理的に捉えて、算数の問題を見だし、問題を自立的・協働的に解決する過程を遂行すること。

※数学的な見方・考え方…事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道立てて考え、統合的・発展的に考えること

以上のことから、研究主題を設定する。

## II 研究仮説

### ○研究仮説1 (45分間の授業で本当の学びを！)

数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動（問題発見・解決の過程の遂行）を通して、子どもたちは数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、自ら進んで考え学び合う至誠の子どもが育つであろう。

#### ① 問題発見・解決の学習過程

(前時の復習等) ⇒ 学習問題 ⇒ (問い) ⇒ めあて ⇒ 見通し ⇒ 自力解決 ⇒ 学び合い ⇒ まとめ  
⇒ 振り返り ⇒ 評価問題 (習熟の時間も含める) ⇒

※数学的活動を取り入れながら、学習過程をそろえて実践を重ねる。

※学習過程のどこに重点を置いて指導するのかを指導者一人一人が課題意識をもって、授業実践を重ねる。

※数学的な見方・考え方を働かせるような手立て、問題を見いだすための手立て、学習を振り返るための手立て等を工夫する。

#### ② 数学的活動

- ・数量や図形を見だし、進んで関わる活動
- ・日常の事象から見だした問題を解決する活動
- ・算数の学習場面から見だした問題を解決する活動
- ・数学的に表現し合う活動

### ○研究仮説2 (学びのための土台づくり！)

「学びのきまり」を作成し遂行することや読解力、数学的表現力を育成するための手立てを工夫することを通して、確かな学力を身に付けるための土台が作られ、授業でも主体的に学び合う子どもが育つであろう。

#### ① 学びのきまり

- ・ノート指導 (何のためにノートを使用するのか見直し、全校共通部分と系統的に指導する部分を研究する)
- ・板書 (学習過程の掲示物を作成)
- ・家庭学習の手引き
- ・言語活動 (発達段階に合わせた対話)
- ・習熟時間の充実 (Fタイムの充実)

#### ② 読解力を育成するための手立て (Fタイム)

#### ③ 数学的な表現力を育成するための手立て (Fタイム)

## III 研究の方向性「実践から次年度の主題・仮説を作る」

○今年度は、主題を大まかに設定し、実践を重ね、授業のどこに課題があるのかを探る1年間にする。

○日々の実践や研究授業では、数学的活動を通して、数学的な見方・考え方を働かせるような授業を重ねる。特に、問題発見・解決の過程で何に重点を置いて指導したのか (例えば、「子どもの問いからめあてを作る」「自分の考えをもつことができるための対話の工夫」など) を一人一人が明確にしておき、その実践から出たよさや課題を全体で共有するようにする。

○年度末に、1年間の実践を整理し、次年度の研究の構想を提案する。

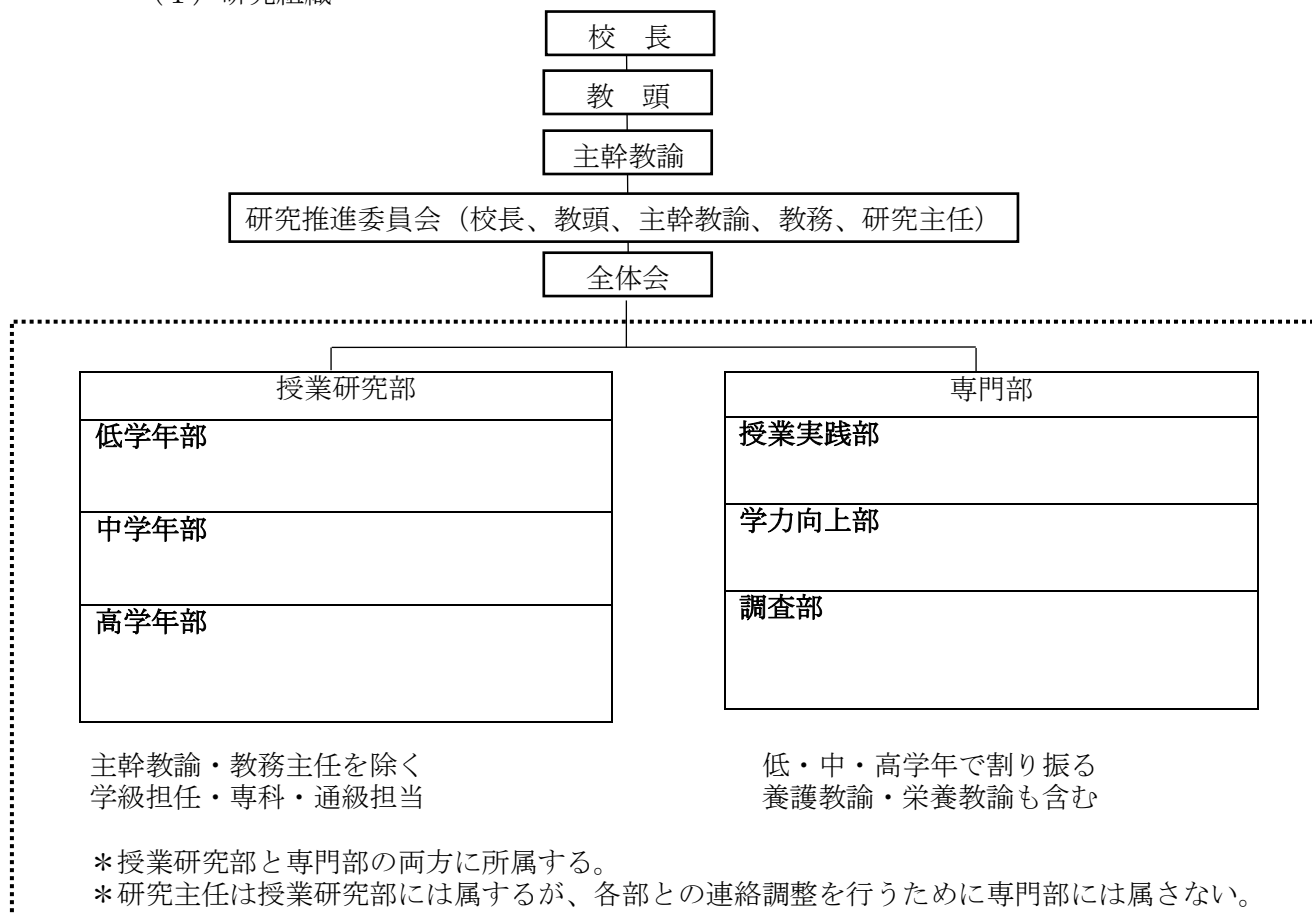
## IV研究内容

### 1 研究内容

<b>1. 算数科の授業改善</b>
(1) 新学習指導要領への理解 ・主体的・対話的で深い学び、数学的な見方・考え方、数学的活動、評価 等 (2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善【数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動】 ・自ら問題発見、解決方法を見いだす「めあて」と「見通し」の工夫（「問い」から作る授業） ・対話の在り方（学習形態、思考ツール、話し合いの視点、問い） ・自分の考えを書くための手立て（既習事項の理解のさせ方） ・書く活動の工夫（図・式・言葉の関連、説明の仕方） ・まとめ・振り返りの工夫（まとめを引き出す発問、深い学び、統合的・発展的） ・評価問題の作成（指導と評価の一体化） ・問題提示の工夫（生活場面からの問題場面設定 等） ・教具開発 (3) ICT機器（デジタル教科書 等）の有効活用 (4) 各種学力検査の分析
<b>2. 学校教育全体での取組</b>
(1) Fタイムの充実（確かな学力の定着） ・既習事項の定着 ・読解力の育成 ・数学的な表現力の育成 (2) 学びのきまり（ノート指導、板書、言語活動など） (3) 九九検定（足し算検定、引き算検定、割り算検定など） (4) 各種調査の分析 (5) 学習環境の整備
<b>3. 家庭との連携を図った取組</b>
(1) 家庭学習の手引き (2) 家庭学習強調週間

### 2 研究組織と運営

#### (1) 研究組織



## (2) 研究の運営

### ① 研究推進委員会

- ・研究の方向性や内容など、研究推進のための計画立案を行う。
- ・講師招聘にかかわり準備・連絡調整を行う。
- ・構成は校長・教頭・主幹教諭・教務主任・研究主任とする。  
また、必要に応じて、低・中・高学年部部長や各専門部の部長が出席する。

### ② 全体会

- ・研究推進委員会からの提案事項について共通理解を図り、確認する。
- ・各部会からの提案事項、研究内容などについて共通理解を図り、確認する。
- ・理論研究、実践研究の深化や学習活動などに関する事項について検討する。
- ・学習指導案の検討及び研究協議を行い、授業研究を推進する。
- ・研究会参加等の報告会を行い、情報交換を定期的に行う。

### ③ 授業研究部

- ・低・中・高学年の3部会を組織し、学級担任・専科・通級担当教諭が所属する。
- ・各部ごとに指導方法、及び評価の仕方についての研究を進める。
- ・授業研究による仮説の検証及びデータ収集を行う。

### ④ 専門部

- ・学力向上部・連携部・調査環境部の3部会を組織し、校長・教頭・主幹教諭・教務主任・研究主任を除く全職員がいずれかの部に所属する。

授業実践部	○「学びのきまり」の作成 ・ノート指導（全校共通部分と系統的に指導する部分） ・板書（学習過程をそろえる、学習過程の掲示物の作成）  ○算数用教具、教材の整理
学力向上部	○家庭学習の手引きの作成 ○家庭学習強調週間の取組の検討 ○九九検定（足し算検定、引き算検定）の作成
調査部	○児童用アンケートの実施・集計・分析（・算数への意欲 ・授業の理解度 など） ○学力テストの分析

## 3 研究方法及び内容

- 原則として、火曜日（15：15～16：30）を研修日とする。
- 研究推進委員会・全体会・授業研究部・専門部を組織し、研究を推進する。
- 指導方法、発問、評価のための研究、仮説検証のために研究授業を行う。
  - ・全体授業は、低・中・高学年で各1本とする。
  - ・全体授業に関しては、授業参観、授業研究は全職員で行う。（指導案検討は各部会で行う）
  - ・部会授業は、低・中・高学年で各1本とする。
  - ・部会授業に関しては、指導案検討、授業参観、授業研究は各授業研究部会で行う。
- 研究校の視察等を積極的に行い、情報交換を行う。
- 各専門部で企画立案したことは、全体会で共通理解を図る。
- 専門部においては、作成した資料等はR2-校務分掌-研究の各フォルダに保存しておく。

## V 年間計画

月	日	曜	研 修 内 容	
			部	内 容
4	27	月	全体会	・本年度の研究の方向性 ・評価について読み合わせ
5	12	火	全体会	・校内研修全体構想について ・共通して実践することの確認
			専門部	・専門部の組織作り ・各専門部の研究内容の検討
5	26	火	全体会	・「学びのきまり」を全体で共通理解（研究主任・学力向上部部長） ・授業者の決定（全体）
6	30	火	全体会	・各専門部の研究内容の発表（専門部長） ・新学習指導要領の解説（研究主任）
7	14	火	全体会	・指導案形式の検討（研究主任）
夏季休業中			全体会	・新学習指導要領の解説（講師の派遣を検討） ・提案授業の指導案趣旨説明（研究主任） ・時間がとれれば、本校児童の課題について話し合う （kj法などで洗い出し、2学期以降の実践に生かす）
			低中高部会	・指導案作成・指導案検討
			専門部	・2学期以降の計画
9	15	火	全体会	提案授業及び授業研究（4年）
10	13	火	低学年部会	部会授業及び授業研究（2年） ※その他の部会は、指導案作成・検討
10	27	火	全体会	全体授業及び授業研究（1年）
11	17	火	中学年部会	部会授業及び授業研究（3年） ※その他の部会は、指導案作成・検討
11	24	火	高学年部会	部会授業及び授業研究（6年） ※その他の部会は、指導案作成・検討
1	19	火	全体会	全体授業及び授業研究（5年）
2	2	火	全体会	・校内研修全体構想について（研究主任） （本年度の研究をまとめ、次年度の構想を提案する）
3	25	水	全体会	・未定

- ※指導案検討については、全体では取らない。（次年度以降の研究テーマを探すため実践を中心に行いたいため）  
 ※全体授業及び授業研究3回（低中高1回ずつ）・・・基本的に、全職員の参加  
 ※部会授業及び授業研究（低中高1回ずつ）・・・基本的にはその部会のメンバーのみの参加  
 （研究主任は参加する）

【現職教育】※長期休業中を中心に実施する予定

- ・特別支援教育について
- ・プログラミング教育について

## VI 研究の基本構想図

